

玉名市まちなか未来図アクションプログラム

KGI/KPI 設定根拠集（案）

～「なぜその数字か」を共有し、活動の振り返りと次の工夫を確実なものにするために～

令和 8 年 3 月 ver

内容

1	目的と位置づけ.....	1
2	指標設計の考え方(共通ルール).....	2
3	目標値設定の考え方(計算のルール).....	4
4	評価指標の設定.....	5
5	評価指標の設定根拠.....	11
6	参考 KGI/KPI ツリー.....	29

令和 8 年 3 月
日本工営都市空間株式会社

1 目的と位置づけ

(ア) 目的:活動を振り返る「共通のものさし」

この資料は、活動の進み具合や目標数字の理由をまとめたルールブックです。数字を単なるノルマにせず、活動をより良くするための「共通の言葉」として共有します。「いつでも測れる・説明できる」状態にすることで、活動を確実なものにします。

(イ) 位置づけ:活動を支える「根拠」と「更新」を記録

この資料は、計画本体には書ききれなかった細かい計算式や、目標数字の根拠をまとめた「裏付け資料」です。また、社会の変化や活動の進み具合に合わせて、目標や測り方を柔軟に変えていく「育てる資料」としての役割も持っています。

(ウ) KGI/KPI 体系の考え方:3つのレベルで測る

活動の成果を、以下の3つのレベルで整理してシートにまとめます。

- まちなか未来図の全体目標(最上位 KGI)
本アクションプログラム(以下、「AP」という。)が目指す最終的な成果(総合的な状態変化・まちなか未来図の実現度)を代表する指標
- コンセプト毎の目標(中間 KGI)
まちなか未来図の各コンセプト(やろう！／かたろう！／ほっとしよう！／はぐくもう！／つながろう！)の実現度を示す指標
- リーディングプロジェクト取組指標(KPI)
中間 KGI の達成に向けた途中段階の状態変化を捉える指標(施策との接続を説明するための補助指標)

本冊子では、上記各指標について、①指標の考え方、②算出方法・データ出所、③目標値の考え方、④目標値が示す到達点(状態)、⑤留意点(定義変更・調査条件等)を、指標シートとして整理します。

(エ) 本冊子の使い方:次の工夫につなげる

数字を見て「達成した・しない」を判定するだけではなく、「なぜそうなったのか」を考え、次の工夫につなげることを一番の目的とします。定期的に内容をチェックし、必要な場合は測り方そのものを見直していきます。

2 指標設計の考え方(共通ルール)

(ア) 指標とは何か／PDCA との関係: 振り返りのための「ものさし」

活動は「やって終わり」ではありません。取り組む前に「まずはこうしてみよう、これによってどのような効果が期待できるか」という「仮説」を立ててから活動を行い、その結果を振り返って次につなげていく。このサイクルを回し続けることが大切です。



図: まちなか未来図版の PDCA サイクルのイメージ

なんとなくの感覚ではなく、数字で客観的に振り返ることで、経験だけに頼らない「納得感のある改善」が可能になります。

(イ) アウトプット指標／アウトカム指標: 2 種類ある「成果」の捉え方

指標には、主に次の 2 種類があります。

アウトプット	イベントの回数や、参加した人数など(活動そのものの実績)
アウトカム	満足度や、人々の意識・行動がどう変わったか(活動によって生まれた良い効果)

PDCA を実現するには、成果を客観的に把握できる指標が必要であり、原則としてアウトカム指標を重視します。

アウトプット・アウトカム指標は、KGI/KPI で以下のような使い分けを行います。

	アウトプット(やったこと)	アウトカム(変化・成果)
KPI(途中管理)	・イベント開催数 ・WS 参加者数 ・整備件数	・来訪頻度の増加 ・滞在時間の増加
KGI(最終成果)	※原則設定しない (意味を持ちにくい)	・定住人口の維持／増加 ・地域への愛着度

(ウ) 指標の選定基準: 良い「ものさし」を選ぶ 4 つの基準

本 AP の指標は、次の観点を満たすものを優先して選定します。

つながり	まちなか未来図やまちなか未来図の「あいことば」「5 つのコンセプト」との関係がハッキリしている。
無理がない	データの出所が明確で、担当者が継続して測り続けられる
比べられる	過去や他の地区と比べて、良くなっているか継続的に追跡できる
ターゲット	どのような対象者の行動や実感が変わることを狙うのかが明確である。

なお、政策誘導が強い分野では、過去の傾向や特別な事情を確認しつつも、到達させた

い将来像(ありたい姿)から逆算して、より高い水準を設定する運用を基本とします。

3 目標値設定の考え方(計算のルール)

(ア) 目標を決める 3 つの視点

本 AP の目標値(5 年後の短期:R12、19 年後の長期:R26)は、指標の性格に応じて、次の 3 つの視点を組み合わせて設定します。

理想から逆算 (バックカスティング)	人口目標など「こうしたい状態・将来の望ましい状態」から決める。
過去から推測 (統計等データ)	これまでの統計的な傾向から将来を推測して考える。
特別な事情	コロナ禍などの影響を冷静に差し引いて分析する。

なお、政策誘導が強い分野では、過去の傾向や特別な事情を確認しつつも、到達させたい将来像(ありたい姿)から逆算して、より高い水準を設定する運用を基本とする。

(イ) 目標値設定の主なパターン(統一した「型」)

本 AP の KGI/KPI 設定根拠集では、目標値設定の考え方を「型」として統一し、各指標シートに適用した型を明記します。

また、根拠集の記載は「なぜその指標か(理由・根拠)」「どう測るか(出所・算出)」「なぜその目標値か(設定根拠)」が追える構成とします。

▼目標設定「型」の例

型の名前	計算方法	使い方のルール
型①:トレンド推計	過去 3～5 年の傾向から、将来の値を予測する。	コロナなどの影響を除いた期間を明記する。
型②:ベンチマーク	他地域や市内で最も高い地区の値、全国平均などを目標にし、ゴールまでの不足分を、年数で均等に割り振る。	「どこと比べるか」を固定して決める。
型③:改善幅上乘せ	市民意識調査などで、重要度が高いのに満足度が低い領域等は、過去推移に一定の改善幅を上乗せして目標にする。	「+5%」など、上乗せする理由を明記する。
型④:上位計画・関連計画と整合	他の公的な計画ですでに決まっている数字に合わせる。	どの計画の数字を使ったかを明記する。

(ウ) 「目標値が示す到達点(状態)」の書き方ルール

目標値は数字だけを置くのではなく、その値のときに何が起きている状態か(到達点)を、1～2 文で固定して記述します。

【記述ルール】

ルール 1	具体的に書く「誰が」「どこで」「どうなったか」を書きます。 (例:不満を持っていた人の半分が、満足に変わった状態)
ルール 2	向きをはっきりさせる「増やす」のか「減らさない(維持する)」のか、目指す方向を明確にします。
ルール 3	変化の中身に踏み込む「毎年〇人ずつ増えていく状態」など、達成までのプロセスがイメージできるように書きます。

4 評価指標の設定

まちなか未来図で定めた目標の達成度を評価するため、評価指標及び数値目標を以下のように設定します。

(ア) まちなか未来図の全体目標(最上位 KGI)

まちなか全体の「幸せ」「人口」「活気」の総量です。

番号	指標名	指標の定義	現在値	短期目標 (R12)	最終目標 (R26)
KGI-1	市民の幸福度 (平均点)	総合計画アンケートにおける市民幸福度の加重平均	6.67 点 (R7)	6.75 点	7.00 点

※参考:総合計画評価時点(R24:6.97点)

■ 目指すべき到達点(全体像)

市民の幸福度において、現在ボリュームゾーンとなっている「中間層(10 点満点中 5～7 点)」を「高評価側(8 点以上)」へと押し上げる。

■ 重点ターゲット

●幸福度の中間層

現状で全体の 50%を超える割合となっている中間層(「普通」と感じている層)に対し、具体的な施策を通じてさらなる幸福感の向上を促す。

番号	指標名	指標の定義	現在値	短期目標 (R12)	最終目標 (R26)
KGI-2	まちなかエリアの人口	国勢調査におけるまちなかエリアの人口	15,630 人 (R2)	14,775 人	13,499 人

※参考:総合計画評価時点(R24:13, 686人)

■ 目指すべき到達点

転入・転居の促進と転出の抑制を組み合わせることで、人口推計値を上回る(減少幅を緩やかにする)状態を維持する。

■ ターゲット戦略

●重点(新規・流入):

若者や子育て世帯の転入・市内転居を増やす。

●維持(定住・継続)

高齢単身世帯を含む既存居住者の転出を防ぐ。

番号	指標名	指標の定義	現在値	短期目標 (R12)	最終目標 (R26)
KGI-3	「協働のまちづくりの推進」への満足度	総合計画アンケートにおける「協働のまちづくりへの満足度(やや満足以上)」の回答件数を全回答件数で除した割合	33.6% (R7)	34.7%	37.8%

4 評価指標の設定（イ）コンセプト毎の目標（中間 KGI）

※参考：総合計画評価時点（R24:37.4%）

（イ）コンセプト毎の目標（中間 KGI）

各コンセプトが市民にどう「実感」されているかを測る指標です。

■ 目指すべき到達点（ビジョン）

総合計画アンケートにおいて「わからない」と回答する無関心層に対し、市内の多様な協働の取り組みを見える化。活動を「見聞かせる」機会を戦略的に増やすことで、「やや満足以上」の肯定的評価へと転換させ、市政への信頼と参画意識の底上げを図る。

■ 重点ターゲット（動かす層）

●「わからない」層（潜在的関心層）

市政や地域活動の情報が届いていない、あるいは判断材料を持たない市民。

コンセプト	指標名	指標の概要	現在値 (R7)	短期目標 (R12)	最終目標 (R26)
やろう！	新たな事に挑戦・成長するための機会があると感じる人の割合	総合計画アンケートにおける「新たな事に挑戦・成長するための機会がある（ある程度あてはまる以上）」の回答件数を全回答件数で除した割合	7.8%	8.8%	11.7%
	その他指標：まちなかエリアへの来訪頻度		48.8%	—	—

※参考：総合計画評価時点（R24:11.3%）

■ 目指すべき到達点

総合計画アンケートで「どちらともいえない」と回答した中立層に対し、公共施設の跡地活用や多様なイベントを「挑戦のフィールド（接点）」として提供。これらの機会を体験・認知することで、「ある程度あてはまる（成長機会がある）」以上の肯定的評価へと転換させ、市全体に活気と自己実現の気運を蓄積する。

■ 重点ターゲット（動かす層）

●「どちらともいえない」層（未実感層）

市内に「挑戦できる場」があることをまだ認識していない、あるいは自分事として捉えきれていない市民。

コンセプト	指標名	指標の概要	現在値 (R7)	短期目標 (R12)	最終目標 (R26)
かたろう！	まちの魅力向上のためのWS・イベント等に参加したことがある人の割合	AP アンケートにおける「まちの魅力向上のためのWS・イベント等（参加した）」の回答件数を全回答件数で除した割合	19.6%	21.0%	25.0%
	その他指標：地域活動への住民参加が盛んであると感じる人の割合（旧玉名市住民）		33.3%	—	—

4 評価指標の設定（イ）コンセプト毎の目標（中間 KGI）

※参考：総合計画評価時点（R24:24.4%）

■ 目指すべき到達点

まちの魅力向上に関する WS やイベントへの参加が「特別な行動」ではなく、市民にとって身近な選択肢となっている状態。未経験層が継続的に初参加へと移行し続けるサイクルを確立し、市民の 4 人に 1 人（参加率 25%）が参加経験を持つことを目指す。あわせて、リピーター層（複数回参加者）の定着を図る。

■ 重点ターゲット（動かす層）

●主ターゲット：若年層（高校 1 年生・大学 1 年生等）

総合学習や地域連携活動を通じ、教育課程の中で「まちなか活動」への接点を自然に持つ世代。

●副ターゲット：未参加の成人層

これまで接点がなかったが、新たなきっかけにより初参加へと繋がる層。

4 評価指標の設定（イ）コンセプト毎の目標（中間 KGI）

コンセプト	指標名	指標の概要	現在値 (R7)	短期目標 (R12)	最終目標 (R26)
ほっと しよう！	防災対策がしっかりしていると 感じる人の割合	総合計画アンケートにおける「防 災対策がしっかりしている(ある 程度あてはまる以上)」の回答件 数を全回答件数で除した割合	23.7%	25.0%	28.5%
	その他指標:安全・安心なまちづくりの推進に関する満足度		41.7%	—	—

※参考:総合計画評価時点(R24:28.0%)

■ 目指すべき到達点:

総合計画アンケートで「どちらともいえない」と回答した中立層に対し、各拠点の防災機能(避難所機能や備蓄等)の周知を徹底し、実際の防災訓練への参加を促進する。これにより、「ある程度あてはまる(防災対策がしっかりしている)」以上の肯定的評価へと転換させ、市全体に「安心感」と「備えの意識」が定着した状態を目指す。

■ 重点ターゲット(動かす層)

●「どちらともいえない」層

災害時の備えについて具体的なイメージを持っておらず、行政や地域の対策をまだ十分に評価できていない市民。

コンセプト	指標名	指標の概要	現在値 (R7)	短期目標 (R12)	最終目標 (R26)
ほっと しよう！	まちなかエリ ア内で「ほっ とする」場所 があると感 じる人の割合	AP アンケートにおける「ま ちなかエリアでほっとする 場所がある」と回答された 件数を全体回答件数で除し た割合	29.7%	32.4%	40.0%
	その他指標:暮らしやすいと感じる人の割合		75.2%	—	—

※参考:総合計画評価時点(R24:38.9%)

■ 目指すべき到達点

まちなかエリアにおいて、現状で「ほっとする場所がない」、あるいは「わからない」と感じている層に対し、空間整備やソフト事業などのリーディングプロジェクトを通じた「居心地の良い場」を創出。これにより、「ほっとする場所がある」という肯定的実感へと転換させ、エリア全体の愛着を向上させる。

■ 重点ターゲット(動かす層)

●「ほっとする場所がない／わからない」層(未充足層)

まちなかを「単なる通過点」や「用事を済ませるだけの場所」と捉えており、滞在の心地よさをまだ享受できていない市民。

コンセプト	指標名	指標の概要	現在値 (R7)	短期目標 (R12)	最終目標 (R26)
はぐく もう！	地域のまちづ くりに関心 を持つ若者や子 育て世代が増 えていると感 じる人の割合	AP アンケートにおける「地 域のまちづくりに関心を持 つ若者や子育て世代が増え ていると感じる(ややそう 思う以上)」の回答件数を全 回答件数から除した割合	14.2%	19.6%	25.0%
	その他指標:子どもたちがいきいきと暮らせると感じる人の割合		32.6%	—	—

※参考:総合計画評価時点(R24:25.0%)

■ 目指すべき到達点

まちなかエリアにおいて、若者や子育て世代のまちづくりへの関心を「どちらともいえない(実感が無い)」と回答した中立層に対し、実際の参加機会の提供や、活動内容の戦略的な発信を強化する。これにより、地域が若々しく変化している様子を「見聞きする」状態を作り出し、「肯定側(ややそう思う以上)」の実感へと転換させ、地域活力への期待値を高める。

■ 重点ターゲット(動かす層)

●「どちらともいえない」層

地域の活動に関心はあるが、具体的にどのような若い世代が動いているのかをまだ十分に認識できていない市民。

4 評価指標の設定（イ）コンセプト毎の目標（中間 KGI）

コンセプト	指標名	指標の概要	現在値 (R7)	短期目標 (R12)	最終目標 (R26)
つながろう！	玉名市に愛着や親しみを感じる人の割合	総合計画アンケートにおける「玉名市に愛着や親しみを感じる(どちらかといえば感じている以上)」の回答件数を全回答件数で除した割合	85.7%	86.0%	86.8%
	その他指標:将来生まれてくる世代のために、良い環境や文化を残したいと感じる人の割合		73.2%	—	—

※参考:総合計画評価時点(R24:86.7%)

■ 目指すべき到達点

「愛着が薄い／どちらともいえない」と感じている市民層に対し、玉名の歴史・文化という「地域の固有価値」と、まちなかでの体験という「現代的な交流」を掛け合わせて提供する。これにより、対象層の意識を「愛着を感じている(肯定層)」へと底上げし、街への帰属意識を高めた状態を目指す。

■ 重点ターゲット(動かす層)

●無関心層(「どちらともいえない」/「感じていない」)

玉名という街の価値や文脈に触れる機会が不足している層。まずは「知る・触れる」段階へ導く。

(ウ) リーディングプロジェクト取組指標(KPI)

中間 KGI の達成を支える、より具体的かつ多角的な(環境・意識面などの)指標です。

リーディングプロジェクトに位置づけた各事業の進捗が、プロジェクト全体の進行管理に直結するよう、各事業との関連性が高い指標を選定しています。

取組指標は、プロジェクトの具体化に合わせて定期的に計測・分析を行い、その推移を課題の抽出や改善などの進行管理に活用します。

なお、目標値は、第1期アクションプログラム初年度(令和8年度)に初回計測を行い、その結果を踏まえ、アクションプログラムのバージョンアップ時に第1期末時点の目標設定を検討します。

LP 名	指標名	指標の概要
①拠点整備プロジェクト	跡地活用に向けた社会実験やイベント等の出店事業者数	跡地内における社会実験・イベントでの出店事業者数を計上
①拠点整備プロジェクト	中央病院跡地や旧庁舎跡地を活用した防災啓発イベント・訓練の延べ参加者数	拠点整備に関連して行う、防災分野の市民協働による啓発イベントやワークショップ、VR や炊き出し訓練の延べ参加者数を申込者名簿から計上
①拠点整備プロジェクト	子育て世帯の WS や社会実験等の参加者数	庁舎跡地活用・屋内遊び場、保育所整備事業にかかる社会実験、WS 等の延べ参加者数
①拠点整備プロジェクト	まちなかエリアの情報発信を行う各種SNSの総フォロワー数	市が関与する、まちなかエリア(旧庁舎跡地・中央病院跡地を含む)における情報発信媒体(SNS)のフォロワー数の合計
②交流プロジェクト	子育て支援に関する事業やイベント等で「気軽に相談できる」と感じた人の割合	子育て支援拠点事業など、子育て相談ができる事業・イベント等の参加者に対するアンケートにおいて、「気軽に相談できると感じた」と回答した人の割合
②交流プロジェクト	交流活動参加者数	未来づくり研究所参加者数、まちなかデザイン構築事業関係の WS 参加者数等を計上
③まちなか整備プロジェクト	公民連携によるまちなか整備の実施箇所数	公民連携により、公共空間の利活用整備、空き家・空き地等の利活用、拠点的空間の形成など、実際に空間の利用環境の改善や新たな活用が図られた箇所数
③まちなか整備プロジェクト	多世代交流イベントの開催数	まちなか整備プロジェクト関係の交流の場・イベントの開催数

5 評価指標の設定根拠

評価指標の設定根拠は次の通りです。

「みんなでつくろう！幸せ実感、大好き玉名」を次世代へ引き継ぐため、最上位 KGI はまちなか未来図に掲載した人口減少、商業活力の低下などの課題も鑑みて、「幸せに感じる(実感)」のほか、「まちなかに住む(定着)」、「まちなかを使う(選ばれる)」の 3 つの側面で設定します。

(ア) 最上位 KGI(最終成果)

【最上位 KGI－1】

指標名	市民の幸福度（平均点）																				
選定理由	グランドデザインのあいことばに掲げる「幸せ実感」を測る指標として設定。																				
指標の定義	総合計画アンケート（R7）における市民幸福度の加重平均値※無回答除く																				
現在値（R7）	6.67 点																				
目標値	短期目標（R12）：6.75 点 最終目標（R26）：7 点																				
目標値の設定根拠	・ 総合計画アンケート（R7）における市民幸福度の加重平均値 6.67 点を基準とする。 ※加重平均点の算出方法：各点数にその選択数を掛け合わせた合計を、回答者総数（不明・無回答を除く）で割ることで算出 加重平均点＝$\frac{\Sigma（幸福度の点数\times 選択数）}{\text{回答件数（不明・無回答を除く）}}$ ・ 今後、低評価層（0～4 点）は維持を図り、現在最も多い中間層（5～7 点）の比率を高評価層に押し上げていくことで目標値達成を目指す。 ・ この考えに基づき、市民幸福度の加重平均値の現況値 6.67 点に 0.33 点上乗せした 7.0 点を最終目標値として設定した。 ・ 短期目標は、最終目標値まで均等に伸びていくと想定し、算出した。 <table><thead><tr><th>得点</th><th>現在値（R7）</th><th>短期目標（R12）</th><th>最終目標（R26）</th></tr></thead><tbody><tr><td>0～4（低評価層）</td><td>8.7%</td><td>8.7%</td><td>8.7%</td></tr><tr><td>5～7（中間層）</td><td>53.1%</td><td>49.8%</td><td>40.6%</td></tr><tr><td>8～10（高評価層）</td><td>38.1%</td><td>41.3%</td><td>50.6%</td></tr><tr><td>加重平均（点）</td><td>6.67点</td><td>6.75点</td><td>7.0点</td></tr></tbody></table> 53.1% 49.8% 40.6% 38.1% 41.3% 50.6% 0～4（低評価層） 5～7（中間層） 8～10（高評価層） ⇒維持 ⇒高評価層へ ⇒高評価層増加 ■現在値（R7） ■短期目標（R12） ■最終目標（R26）	得点	現在値（R7）	短期目標（R12）	最終目標（R26）	0～4（低評価層）	8.7%	8.7%	8.7%	5～7（中間層）	53.1%	49.8%	40.6%	8～10（高評価層）	38.1%	41.3%	50.6%	加重平均（点）	6.67点	6.75点	7.0点
得点	現在値（R7）	短期目標（R12）	最終目標（R26）																		
0～4（低評価層）	8.7%	8.7%	8.7%																		
5～7（中間層）	53.1%	49.8%	40.6%																		
8～10（高評価層）	38.1%	41.3%	50.6%																		
加重平均（点）	6.67点	6.75点	7.0点																		

5 評価指標の設定根拠 (ア)最上位 KGI(最終成果)

データ入手方法・頻度	総合計画アンケート（４年毎実施）
------------	------------------

【最上位 KGI－２】

指標名	まちなかエリアの人口
選定理由	まちなかが、生活利便性や居心地の良さを備えた“住み続けたい暮らしの拠点”として機能しているかを測る指標として設定。
指標の定義	国勢調査におけるまちなかエリアの人口 (集計対象小地域：玉名市中・中尾・山田・立願寺・富尾・玉名・岩崎・高瀬・繁根本・亀甲)
現在値 (R2)	15,630 人
目標値	短期目標 (R12)：14,775 人 長期目標 (R26)：13,499 人

5 評価指標の設定根拠 (ア)最上位 KGI(最終成果)

目標値の設定根拠

・将来人口推計値は国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール V3」による推計値を基準とする。なお、推計値は R7 年以降 5 年毎の数値のみ公表されているため、R26 年の推計値は、R22 年～R27 年推計値まで均等に上昇すると仮定して算出した。

・上位計画である玉名市立地適正化計画で位置づけている「子育て環境やまちなかにおける住環境向上等によって、年間 20 人の誘導を想定（玉名市立地適正化計画 p 93）」の考え方との整合を図り、R2 年を現在値とし、R12 で将来人口推計値から 200 人増（R2 年から 10 年×年間 20 人増）、R26 で 480 人増（R2 年から 24 年×年間 20 人増）を目標値として設定した。

	現在値（R2）	短期目標（R12）	最終目標（R26）
現況・推計値	15,630人	14,575人	13,019人
年間20人の人口誘導		+ 200人	+ 480人
目標値		14,775人	13,499人

16000

15500

15000

14500

14000

13500

13000

12500

12000

15630

14575

13019

現在値（R2）

短期目標（R12）

最終目標（R26）

人口誘導

200

480

(参考) 玉名市立地適正化計画

	現状 平成 27 年 (2015 年) 時点	推計値 ^{※1} 令和 22 年 (2040 年) 時点	目標数値 ^{※2} 令和 22 年 (2040 年) 時点
目標数値② 居住誘導区域内の 人口密度	29.4 人/ha	25.1 人/ha	26.0 人/ha

※1 国立社会保障・人口問題研究所ベースでの人口密度

※2 子育て環境やまちなかにおける住環境向上等によって、年間 20 人の誘導を想定

データ入手方法・頻度

国勢調査（5 年毎統計予定）もしくは住民基本台帳

【最上位 KGI－3】

指標名	「協働のまちづくりの推進」への満足度
選定理由	グランドデザインのあいことばに掲げる「みんなでつくろう！」を測る指標として設定。
指標の定義	総合計画アンケートにおける「協働のまちづくりへの満足度（やや満足以上）」の回答件数を全回答件数で除した割合。
現在値 (R7)	33.6%
目標値	短期目標 (R12)：34.7% 長期目標 (R26)：37.8%

5 評価指標の設定根拠 (ア)最上位 KGI(最終成果)

目標値の設定根拠

・跡地活用に伴う取組や公民連携まちなか整備の実施を推進し、協働のまちづくりの機会拡大を図るとともにその取組の認知拡大によって意識の底上げ（各ランク 10%が上位ランクに移動）を目指す。
・この考えに基づき、「満足・やや満足」層の現在 33.6%に、「わからない」層の約 10%に相当する 4.2%を上乗せした 37.8%を最終目標値として設定した。短期目標は、最終目標値まで均等に伸びていくと想定し、算出した。

	現在値（R7）	短期目標（R12）	最終目標（R26）	現況比（R7）
目標値	33.6%	34.7%	37.8%	4.2%
参考（人口換算）	20725.8人	21404.3人	23322.7人	2596.9人

（参考）各項目の 10%が 1 ランク上昇した場合

	満足	やや満足	わからない	やや不満	不満
現況（R7）	3.2%	30.4%	42.1%	18.3%	5.9%
下位ランクからの上昇分	+10%（やや満足）	10%（わからない）	+10%（やや不満）	+10%（不満）	
最終目標（R26）	6.2%	31.6%	39.8%	17.1%	5.3%

満足度	現在値（R7）	最終目標（R26）
不満	5.9%	5.3%
やや不満	18.3%	17.1%
わからない	42.1%	39.8%
やや満足	30.4%	31.6%
満足	3.2%	6.2%

データ入手方法・頻度

総合計画アンケート（4 年毎実施）

(イ) 中間 KGI(各コンセプトの達成実感)

【中間 KGI-1 (コンセプト：やろう！)】

指標名	新たな事に挑戦・成長するための機会があると感じる人の割合			
関連する最上位 KGI との因果関係	【最上位 KGI-1 市民の幸福度】 挑戦・成長するための機会があることで満足感が高まり市民の幸福度向上につながる。			
	【最上位 KGI-2 まちなかエリアの人口】 成長やチャレンジの場があるまちなかは若者や子育て世代にとっての魅力となりまちなかエリアでの定住意向の向上につながる。			
	【最上位 KGI-3 「協働のまちづくりの推進」への満足度】 挑戦や成長の機会が整っていることは、市民の地域活動への参画を促し協働のまちづくりの推進への満足度向上につながる。			
選定理由	「やろう！」が掲げる“やりたいことにチャレンジし、実現できるまちなか”の実感度を測るため、新たに挑戦・成長するための機会の提供と、その認知の広がりをつめる指標として設定。			
指標の定義	総合計画アンケートにおける「新たな事に挑戦・成長するための機会がある（ある程度あてはまる以上）」の回答件数を全回答件数（無回答を除く）で除した割合。			
現在値 (R7)	7.8%			
目標値	短期目標 (R12) : 8.8% 長期目標 (R26) : 11.7%			
目標値の設定根拠	・跡地活用に伴う取組やイベントの開催によって、市民等の挑戦機会を増やし、さらに取組の認知拡大によって意識の底上げ（各ランク 10%が上位ランクに移動）を目指す。 ・この考えに基づき、「非常にあてはまる・ある程度あてはまる」層の現況値 7.8%に、「どちらともいえない」層の約 10%に相当する 4.0%を上乗せした 11.7%を最終目標値として設定した。短期目標は、最終目標値まで均等に伸びていくと想定し、算出した。			
		現在値 (R7)	短期目標 (R12)	最終目標 (R26)
	目標値	7.8%	8.8%	11.7%
	参考 (人口換算)	4,811.35人	5,428.19人	7,217.02人
	(参考) 各項目の 10%が 1 ランク上昇した場合			
		非常にあてはまる	ある程度あてはまる	どちらともいえない
	現況 (R7)	1.3%	6.5%	39.1%
	下位ランクからの上昇分	+10%	+10%	+10%
	最終目標 (R26)	1.95%	9.76%	38.59%
データ入手方法・頻度	総合計画アンケート (4 年毎実施)			

【中間 KGI-1 の補足指標】

指標名	まちなかエリアへの来訪頻度
選定理由	挑戦・成長機会以外も含むまちなかの魅力やにぎわいを捉える補足指標として設定。
指標の定義	アクションプログラムアンケート（以下、AP アンケート）における「まちなかエリアへの来訪頻度（週数回以上）」の回答件数を全回答件数（無回答を除く）で除した割合。
現在値 (R7)	48.8%
データ入手方法・頻度	AP アンケート (4 年毎実施予定)

5 評価指標の設定根拠（イ）中間 KGI(各コンセプトの達成実感)

【中間 KGI-2（コンセプト：かたろう！）】

指標名	まちの魅力向上のための WS・イベント等に参加したことがある人の割合				
関連する最上位 KGI との因果関係	【最上位 KGI-1 市民の幸福度】 まちなかに関する対話や参加の機会が増えることで地域への誇りや愛着が醸成され、市民の幸福度が高まる。				
	【最上位 KGI-2 まちなかエリアの人口】 まちなかに関する対話や参加の機会が増えることで地域への誇りや愛着が醸成され、定住意向の向上につながる。				
	【最上位 KGI-3 「協働のまちづくりの推進」への満足度】 まちなかに関する対話や参加の機会が増えることで、市民の協働意識が高まり、協働のまちづくりの推進への満足度向上につながる。				
選定理由	「かたろう！」が掲げる“楽しく、自由に思いを語り、集いに参加できるまちなか”の実現度を測るため、市民の主体的な参加度合いを捉える指標として設定。				
指標の定義	AP アンケートにおける「まちの魅力向上のための WS・イベント等（参加した）」の回答件数を全回答件数（無回答を除く）で除した割合。				
現在値（R7）	19.6%				
目標値	短期目標（R12）：21.0% 長期目標（R26）：25.0%				
目標値の設定根拠	・2024 年に開催した「まちなか出前ワークショップ」（全 8 回、累計参加人数 159 人）等の取組を継続実施により、19 年後には累計 3,000 人以上の参加が見込まれると想定し、最終目標値を算出した。				
	・短期目標は、最終目標値まで均等に伸びていくと想定し、算出した。				
		現在値（R7）	短期目標（R12）	最終目標（R26）	現況比（R7）
	目標値	19.6%	21.0%	25.0%	5.4%
	WS・イベント参加人数		+863.5人(R7)	+2,467.4人(R12)	
参考（人口換算）	12,090.1人	12,953.6人	15,421人	3330.9人	
	※年間目標：+175 人（新規参加者）				
データ入手方法・頻度	AP アンケート（4 年毎実施予定）				

【中間 KGI-2 の補足指標】

指標名	地域活動への住民参加が盛んであると感じる人の割合（旧玉名市民）
選定理由	まちの魅力向上のための WS・イベント以外のまちなかエリアでの地域活動についても、市民の主体的な参加度合いを捉える補足指標として設定。
指標の定義	総合計画アンケートにおける旧玉名市の地域別集計にて、「暮らしている地域は、地域活動（自治会・地域行事・防災活動等）への住民参加が盛んである（ある程度あてはまる以上）」の回答件数を全回答件数（無回答を除く）で除した割合。
現在値（R7）	33.3%
データ入手方法・頻度	総合計画アンケート（4 年毎実施）

5 評価指標の設定根拠（イ）中間 KGI(各コンセプトの達成実感)

【中間 KGI-3（コンセプト：ほっとしよう！）】

指標名	防災対策がしっかりしていると感じる人の割合																								
関連する最上位 KGI との因果関係	【最上位 KGI- 1 市民の幸福度】 安全・安心の実感は、生活の質を支える重要な基盤であり市民の幸福度の向上に直接寄与する。																								
	【最上位 KGI- 2 まちなかエリアの人口】 安全性の高いまちなかを形成は、居住者の安心感を高め定住意向の向上につながる。																								
	【最上位 KGI- 3 「協働のまちづくりの推進」への満足度】 防災対策への信頼は、地域への安心感とつながりを深め市民の協働意識を高めることで協働のまちづくりの推進への満足度向上につながる。																								
選定理由	「ほっとしよう！」が掲げる“誰もが安心して過ごせるまちなか”の実現度を測るため、防犯対策や安全性向上への取組が市民の安心感として認知されているかを捉える指標として設定。																								
指標の定義	総合計画アンケートにおける「防災対策がしっかりしている（ある程度あてはまる以上）」の回答件数を全回答件数（無回答を除く）で除した割合。																								
現在値（R7）	23.7%																								
目標値	短期目標（R12）：25.0% 長期目標（R26）：28.5%																								
目標値の設定根拠	・跡地活用に伴う避難所整備とその周知により、防災対策への認知拡大によって意識の底上げ（各ランク 10%が上位ランクに移動）を目指す。																								
	・この考え方にに基づき、「非常にあてはまる・ある程度あてはまる」層の現況値 23.7%に、「どちらともいえない」層の約 10%に相当する 4.8%を上乗せした 28.5%を最終目標値として設定した。																								
	・短期目標は、最終目標値まで均等に伸びていくと想定し、算出した。																								
	<table><tr><td></td><td>現在値（R7）</td><td>短期目標（R12）</td><td>最終目標（R26）</td><td>現況比（R7）</td></tr><tr><td>目標値</td><td>23.7%</td><td>25.0%</td><td>28.5%</td><td>4.8%</td></tr><tr><td>参考（人口換算）</td><td>14,619.11人</td><td>15,421人</td><td>17,555.27人</td><td>2,936.16人</td></tr></table>		現在値（R7）	短期目標（R12）	最終目標（R26）	現況比（R7）	目標値	23.7%	25.0%	28.5%	4.8%	参考（人口換算）	14,619.11人	15,421人	17,555.27人	2,936.16人									
		現在値（R7）	短期目標（R12）	最終目標（R26）	現況比（R7）																				
目標値	23.7%	25.0%	28.5%	4.8%																					
参考（人口換算）	14,619.11人	15,421人	17,555.27人	2,936.16人																					
（参考）各項目の 10%が 1 ランク上昇した場合																									
	<table><tr><td></td><td>85.7</td><td>ある程度当てはまる</td><td>どちらともいえない</td><td>あまり当てはまらない</td><td>全く当てはまらない</td></tr><tr><td>現況（R7）</td><td>2.7%</td><td>21.0%</td><td>47.6%</td><td>21.7%</td><td>7.0%</td></tr><tr><td>下位ランクからの上昇分</td><td>+10%</td><td>+10%</td><td>+10%</td><td>+10%</td><td></td></tr><tr><td>最終目標（R26）</td><td>4.8%</td><td>23.7%</td><td>45.0%</td><td>20.2%</td><td>6.3%</td></tr></table>		85.7	ある程度当てはまる	どちらともいえない	あまり当てはまらない	全く当てはまらない	現況（R7）	2.7%	21.0%	47.6%	21.7%	7.0%	下位ランクからの上昇分	+10%	+10%	+10%	+10%		最終目標（R26）	4.8%	23.7%	45.0%	20.2%	6.3%
	85.7	ある程度当てはまる	どちらともいえない	あまり当てはまらない	全く当てはまらない																				
現況（R7）	2.7%	21.0%	47.6%	21.7%	7.0%																				
下位ランクからの上昇分	+10%	+10%	+10%	+10%																					
最終目標（R26）	4.8%	23.7%	45.0%	20.2%	6.3%																				
データ入手方法・頻度	総合計画アンケート（４年毎実施）																								

【中間 KGI-3 の補足指標】

指標名	安全・安心なまちづくりの推進に関する満足度
選定理由	防犯対策も含むより広義な「安全・安心なまちづくり」の実現を捉える補足指標として設定。
指標の定義	総合計画アンケートにおける「安全・安心なまちづくりの推進の満足度（やや満足以上）」の回答件数を全回答件数（無回答を除く）で除した割合。
現在値（R7）	41.7%
データ入手方法・頻度	総合計画アンケート（4 年毎実施）

5 評価指標の設定根拠（イ）中間 KGI(各コンセプトの達成実感)

【中間 KGI－4（コンセプト：ほっとしよう！）】

指標名	まちなかエリア内で「ほっとする」場所があると感じる人の割合																					
関連する最上位 KGI との因果関係	【最上位 KGI- 1 市民の幸福度】 「ほっとする」場所の存在は、暮らしの満足感を高め市民の幸福度を向上させる。 【最上位 KGI- 2 まちなかエリアの人口】 「ほっとする」場所の充実は、子育て世代や高齢者が安心して暮らし続けられる環境を形成し、定住意向の向上につながる。 【最上位 KGI- 3 「協働のまちづくりの推進」への満足度】 「ほっとする」場所の存在は、地域への親しみやつながりを深め市民がまちづくりに関わりやすい環境を生み、協働のまちづくりの推進への満足度向上につながる。																					
選定理由	「ほっとしよう！」が掲げる“心地よく過ごせるまちなか”の実現度を測るため、まちなかのとある場所（例：広場・図書館など）が“ほっとできる居場所”として認識されているかを捉える指標として設定。																					
指標の定義	AP アンケートにおける「まちなかエリアでほっとする場所がある」と回答された件数を全体回答件数（無回答を除く）で除した割合。																					
現在値（R7）	29.7%																					
目標値	短期目標（R12）：32.4% 長期目標（R26）：40.0%																					
目標値の設定根拠	・各施設・インフラの老朽化対策・更新（まちなか整備）、子育て支援など「相談できる場」の継続確保により、まちなかで安心・くつろぎを感じられる環境づくりを推進することで、上昇幅（10%増）を目指す。 ・なお、上昇幅は総合戦略の目標値「住みやすいと感じている市民の割合」が約 10%上昇（2019 年 58.4%→2027 年 68.0%）を参考とし設定した。 ・この考え方にに基づき、「ほっとする場所がある」と感じる市民の割合の現況値 29.7%に 10.3%を上乗せした 40%を最終目標値として設定した。 ・短期目標は、最終目標値まで均等に伸びていくと想定し、算出した。 <table><tr><th></th><th>現在値（R7）</th><th>短期目標（R12）</th><th>最終目標（R26）</th><th>現況比（R7）</th></tr><tr><td>目標値</td><td>29.7%</td><td>32.4%</td><td>40.0%</td><td>10.3%</td></tr><tr><td>参考（人口換算）</td><td>18,319.7人</td><td>19,985.6人</td><td>24,673.6人</td><td>6,353.9人</td></tr></table> （参考）第 2 期玉名市まち・ひと・しごと創生総合戦略（令和 4 年度改訂版）P13 <table><tr><th>数値目標</th><th>基準値</th><th>目標値</th></tr><tr><td>住みやすいと感じている市民の割合</td><td>58.4%</td><td>68.0%</td></tr></table> ＊基準値は、令和元（2019）年 10 月実施の第 2 期玉名市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定のためのアンケート結果の値とする。 ＊目標値は、令和 6（2024）年実施予定の第 2 期玉名市まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証のためのアンケート結果とする。		現在値（R7）	短期目標（R12）	最終目標（R26）	現況比（R7）	目標値	29.7%	32.4%	40.0%	10.3%	参考（人口換算）	18,319.7人	19,985.6人	24,673.6人	6,353.9人	数値目標	基準値	目標値	住みやすいと感じている市民の割合	58.4%	68.0%
	現在値（R7）	短期目標（R12）	最終目標（R26）	現況比（R7）																		
目標値	29.7%	32.4%	40.0%	10.3%																		
参考（人口換算）	18,319.7人	19,985.6人	24,673.6人	6,353.9人																		
数値目標	基準値	目標値																				
住みやすいと感じている市民の割合	58.4%	68.0%																				
データ入手方法・頻度	AP アンケート（4 年毎実施予定）																					

【中間 KGI－4 の補足指標】

指標名	暮らしやすいと感じる人の割合
選定理由	ほっとする場所の充実による住環境の向上を捉える補足指標として設定。
指標の定義	総合計画のアンケートにおける「現在の玉名市の暮らしやすさ（どちらかといえば暮らしやすい以上）」の回答件数を全回答件数（無回答を除く）で除した割合。
現在値（R7）	75.2%

5 評価指標の設定根拠（イ）中間 KGI(各コンセプトの達成実感)

データ入手方法・頻度	総合計画アンケート（４年毎実施）																																												
【中間 KGI－５（コンセプト：はぐくもう！）】																																													
指標名	地域のまちづくりに関心を持つ若者や子育て世代が増えていると感じる人の割合																																												
関連する最上位 KGI との因果関係	【最上位 KGI- 1 市民の幸福度】 未来の担い手の存在は、地域に希望と活力をもたらし市民の幸福度の向上につながる。																																												
	【最上位 KGI- 2 まちなかエリアの人口】 若者・子育て世代の関心向上により、子育てしやすい環境として評価を高め定住意向の向上につながる。																																												
	【最上位 KGI- 3 「協働のまちづくりの推進」への満足度】 若者や子育て世代の関心の向上によるまちづくりへの参画機会が増えることで、協働のまちづくりの推進への満足度向上につながる。																																												
選定理由	「はぐくもう！」が掲げる“玉名のスキ！を育て、次の世代と共に成長するまちなか”の実現度を測るため、若者や子育て世代のまちづくり参加とその認知拡大を捉える指標として設定。																																												
指標の定義	AP アンケートにおける「地域のまちづくりに関心を持つ若者や子育て世代が増えていると感じる（ややそう思う以上）」の回答件数を全回答件数（無回答を除く）から除した割合。																																												
現在値（R7）	14.2%																																												
目標値	短期目標（R12）：19.6% 長期目標（R26）：25.0%																																												
目標値の設定根拠	・若者や子育て世代を対象としたまちづくり活動の継続（年間 150 人以上の新規参加者）とその取組の発信によって、まちづくり活動への参加者及びその活動の認知拡大を目指す。 ・また、今後の 5 年間を助走期として着実に取組を進め、5～10 年を周知期として発信を強化し、10～20 年で安定期に入ると想定した。助走期・周知期については 5 年毎に 5.4% 上乗せし、安定期は現状を維持することとし、短期目標は 19.6%、最終目標は 25.0% と設定した。 <table><tr><td></td><td>現在値（R7）</td><td>短期目標（R12）</td><td>最終目標（R26）</td><td>現況比（R7）</td></tr><tr><td>目標値</td><td>14.2%</td><td>19.6%</td><td>25.0%</td><td>10.8%</td></tr><tr><td>参考（人口換算）</td><td>8,779.3人</td><td>12090.1人</td><td>15,421人</td><td>6,641.7人</td></tr><tr><td>参考（40代以下換算）</td><td>3,976.2人</td><td>5475.7人</td><td>6,984.3人</td><td>3,008.1人</td></tr></table> <table><thead><tr><th>期</th><th>R7</th><th>R12</th><th>R17</th><th>R22</th><th>R26</th></tr></thead><tbody><tr><td>助走期</td><td>14.2%</td><td>19.6%</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>周知期</td><td></td><td></td><td>25.0%</td><td></td><td></td></tr><tr><td>安定期</td><td></td><td></td><td></td><td>25.0%</td><td>25.0%</td></tr></tbody></table>		現在値（R7）	短期目標（R12）	最終目標（R26）	現況比（R7）	目標値	14.2%	19.6%	25.0%	10.8%	参考（人口換算）	8,779.3人	12090.1人	15,421人	6,641.7人	参考（40代以下換算）	3,976.2人	5475.7人	6,984.3人	3,008.1人	期	R7	R12	R17	R22	R26	助走期	14.2%	19.6%				周知期			25.0%			安定期				25.0%	25.0%
	現在値（R7）	短期目標（R12）	最終目標（R26）	現況比（R7）																																									
目標値	14.2%	19.6%	25.0%	10.8%																																									
参考（人口換算）	8,779.3人	12090.1人	15,421人	6,641.7人																																									
参考（40代以下換算）	3,976.2人	5475.7人	6,984.3人	3,008.1人																																									
期	R7	R12	R17	R22	R26																																								
助走期	14.2%	19.6%																																											
周知期			25.0%																																										
安定期				25.0%	25.0%																																								
データ入手方法・頻度	AP アンケート（４年毎実施予定）																																												

【中間 KGI-5 の補足指標】

指標名	子どもたちがいきいきと暮らせると感じる人の割合
選定理由	まちづくり活動への参加以外にも子育て環境の充実を捉える補足指標として設定。
指標の定義	総合計画のアンケートにおける「子どもたちがいきいきと暮らせる（ある程度あてはまる以上）」の回答件数を全回答件数（無回答を除く）で除した割合。
現在値（R7）	32.6%

5 評価指標の設定根拠（イ）中間 KGI(各コンセプトの達成実感)

データ入手方法・頻度	総合計画アンケート（4年毎実施）
------------	------------------

【中間 KGI－6（コンセプト：つながろう！）】

指標名	玉名市に愛着や親しみを感じる人の割合				
関連する最上位 KGI との因果関係	【最上位 KGI-1 市民の幸福度】 住むまちに対する愛着や親しみの醸成によって、市民の幸福度の向上につながる。				
	【最上位 KGI-2 まちなかエリアの人口】 玉名市に対し愛着や親しみを感じる人が増えることで、移住や定住意向の向上につながる。				
	【最上位 KGI-3 「協働のまちづくりの推進」への満足度】 玉名市に対し愛着や親しみを感じる人が増えることで、市民の協働意識が高まり、協働のまちづくりの推進への満足度向上につながる。				
選定理由	「つながろう！」が掲げる”歴史と文化、社会・経済や多様な人々と、みんながつながり支え合うまちなか”の実現度を測るため、歴史文化継承やまちづくりへの参加、魅力の発信など動機となる愛着の醸成を捉える指標として設定。				
指標の定義	総合計画のアンケートにおける「玉名市に愛着や親しみを感じている（どちらかといえば感じている以上）」の回答件数を全回答件数（無回答を除く）で除した割合。				
現在値（R7）	85.7%				
目標値	短期目標（R12）：86.0% 長期目標（R26）：86.8%				
目標値の設定根拠	・ 交流活動や協働のまちづくりの情報発信によって、玉名市のまちづくりへの興味・関心層を広げ、愛着・親しみの意識底上げ（各ランクの 10%が上位ランクに移動）を目指す。				
	・ この考えに基づき、「感じている・どちらかといえば感じている」層の現況値 85.7%に、「どちらかといえば感じていない」層の約 10%に相当する 1.1%を上乗せした 86.8%を最終目標値として設定した。短期目標は、最終目標値まで均等に伸びていくと想定し、算出した。				
		現在値（R7）	短期目標（R12）	最終目標（R26）	現況比（R7）
	目標値	85.7%	86.0%	86.8%	1.1%
	参考（人口換算）	52863.2人	53048.2人	53529.4人	666.2人
	（参考）各項目の 10%が 1 ランク上昇した場合				
	感じている	どちらかといえば感じている	どちらかといえば感じていない	感じていない	
現況（R7）	36.0%	49.7%	10.8%	3.2%	
下位ランクからの上昇分	+10%	+10%	+10%		
最終目標（R26）	41.0%	45.8%	10.0%	3.2%	
データ入手方法・頻度	総合計画アンケート（４年毎実施）				

【中間 KGI－6 の補足指標】

指標名	将来生まれてくる世代のために、良い環境や文化を残したいと感じる人の割合
選定理由	次世代へ良い環境や文化をつなげる意識を測る補足指標として設定。
指標の定義	総合計画のアンケートにおける「来生まれてくる世代のために、良い環境や文化を残したい（ある程度あてはまる以上）」の回答件数を全回答件数（無回答を除く）で除した割合。

5 評価指標の設定根拠 (ウ)リーディングプロジェクト取組指標(KPI)

現在値 (R7)	73.2%
データ入手方法・頻度	総合計画アンケート (4年毎実施)

(ウ) リーディングプロジェクト取組指標(KPI)

【KPI-1 (LP①拠点整備プロジェクト)】

指標名	跡地活用に向けた社会実験やイベント等の出店事業者数								
KPI の選定理由	本プロジェクトでは、中央病院跡地および旧庁舎跡地の活用に向けて、社会実験やトライアルイベント等を通じて利活用ニーズや運営手法を検証し、その成果を本格的な拠点整備に反映していくこととしている。 中央病院跡地利活用や庁舎跡地等活用検討事業、各跡地におけるトライアル・情報発信は、出店機会を直接創出する取組であり、これらにおける出店事業者数は、拠点活用に向けた民間事業者や団体の参画状況（担い手の広がり）を示す指標として有効である。 また、高校の魅力化事業による若者の関与や、子どもの遊び場整備・場づくり、文化センター改修検討、まちなか整備やデザイン構築等の取組により、社会実験の実施環境や誘客条件が整うことで、出店機会の創出や参画主体の拡大が促進される。 このため、本指標は、直接的な出店機会の創出と、それを支える環境整備の双方の成果を踏まえ、拠点形成に向けた担い手形成の進展を把握する先行的なアウトカム指標として位置づけられる。 将来的な拠点運営や民間活用の担い手候補の蓄積状況を把握する指標としても有効である。								
KPI の定義	中央病院跡地および旧庁舎跡地等において実施される社会実験やトライアルイベント等に出店した事業者・団体の数（年間、延べ） <table><tr><td>■対象とする取組（直接的に計測対象となる事業）</td><td> ● 中央病院跡地利活用（社会実験） ● 中央病院跡地トライアル・情報発信 ● 庁舎跡地等活用検討事業・屋内遊び場整備事業（社会実験） ● 旧庁舎跡地トライアル・情報発信 </td></tr><tr><td>■対象とする主体</td><td> ● 飲食・物販等の出店事業者 ● ワークショップ・体験コンテンツ提供者 ● サービス提供（子育て支援、生涯学習、交流等）を行う団体 ● 地元事業者、創業者、学生団体 等（高校の魅力化事業との連携含む） </td></tr><tr><td>■集計ルール</td><td> ● 延べ事業者数として集計（同一事業者の複数回出店は重複計上） ● 出店日単位またはイベント単位で統一してカウント ● 協賛・後援のみの事業者は含めない ● 主催者のみで完結する場合は対象外 </td></tr></table>			■対象とする取組（直接的に計測対象となる事業）	● 中央病院跡地利活用（社会実験） ● 中央病院跡地トライアル・情報発信 ● 庁舎跡地等活用検討事業・屋内遊び場整備事業（社会実験） ● 旧庁舎跡地トライアル・情報発信	■対象とする主体	● 飲食・物販等の出店事業者 ● ワークショップ・体験コンテンツ提供者 ● サービス提供（子育て支援、生涯学習、交流等）を行う団体 ● 地元事業者、創業者、学生団体 等（高校の魅力化事業との連携含む）	■集計ルール	● 延べ事業者数として集計（同一事業者の複数回出店は重複計上） ● 出店日単位またはイベント単位で統一してカウント ● 協賛・後援のみの事業者は含めない ● 主催者のみで完結する場合は対象外
■対象とする取組（直接的に計測対象となる事業）	● 中央病院跡地利活用（社会実験） ● 中央病院跡地トライアル・情報発信 ● 庁舎跡地等活用検討事業・屋内遊び場整備事業（社会実験） ● 旧庁舎跡地トライアル・情報発信								
■対象とする主体	● 飲食・物販等の出店事業者 ● ワークショップ・体験コンテンツ提供者 ● サービス提供（子育て支援、生涯学習、交流等）を行う団体 ● 地元事業者、創業者、学生団体 等（高校の魅力化事業との連携含む）								
■集計ルール	● 延べ事業者数として集計（同一事業者の複数回出店は重複計上） ● 出店日単位またはイベント単位で統一してカウント ● 協賛・後援のみの事業者は含めない ● 主催者のみで完結する場合は対象外								
データ入手方法・頻度	<table><tr><td>■データ入手方法</td><td> ● 各社会実験・イベントの出店者リスト（申込情報、出店台帳）から把握 ● 実施主体（市担当課、委託事業者、運営団体等）が記録報告 ● 事務局において一覧台帳として一元管理（イベント名／日付／場所／出店者数／出店内容 等） </td></tr><tr><td>■計測頻度</td><td>年1回（年度単位で合計値を算出）、進行管理のため半期ごとに中間集計</td></tr></table>			■データ入手方法	● 各社会実験・イベントの出店者リスト（申込情報、出店台帳）から把握 ● 実施主体（市担当課、委託事業者、運営団体等）が記録報告 ● 事務局において一覧台帳として一元管理（イベント名／日付／場所／出店者数／出店内容 等）	■計測頻度	年1回（年度単位で合計値を算出）、進行管理のため半期ごとに中間集計		
■データ入手方法	● 各社会実験・イベントの出店者リスト（申込情報、出店台帳）から把握 ● 実施主体（市担当課、委託事業者、運営団体等）が記録報告 ● 事務局において一覧台帳として一元管理（イベント名／日付／場所／出店者数／出店内容 等）								
■計測頻度	年1回（年度単位で合計値を算出）、進行管理のため半期ごとに中間集計								
関連する KGI	（やろう！）暮らしている地域には、新たな事に挑戦・成長するための機会があると感じる人の割合								
関連する取組事業	直接的	中央病院跡地利活用（社会実験実施場所と、その結果を反映する対象事業のため） 中央病院跡地トライアル・情報発信（計測対象とする事業のため） 庁舎跡地等活用検討事業・屋内遊び場整備事業（社会実験実施場所と、その結果を反映する対象事業のため） 旧庁舎跡地トライアル・情報発信（計測対象とする事業のため）							
	間接的	高校の魅力化事業（総合学習などでの関与が期待できるため） まちなか・都市整備（滞在のための社会実験を行うことで、誘客に寄与するため） 子どもが自由に遊び学ぶ場づくり （当該試みとイベントを一緒にを行うことで、誘客に寄与するため） 文化センター改修検討事業（社会実験実施場所を安全に利用できるようにするため） まちなかデザイン構築事業（デザイン協議会等で評価活動を行うため）							
	関連性薄い	3D 都市モデルユースケース開発事業（社会実験との関連が薄いため） 玉名第1 保育所整備事業（社会実験とは無関係に整備が行われるため）							

5 評価指標の設定根拠 (ウ)リーディングプロジェクト取組指標(KPI)

		1次避難所の指定・運営管理（社会実験とは無関係に整備が行われるため） 子ども家庭総合支援事業（日常的な相談拠点運営のため） 利用者支援事業（同上） タマにゃん教室事業（日常的な事業のため）
--	--	---

【KPI-2（LP①拠点整備プロジェクト）】

指標名	中央病院跡地や旧庁舎跡地を活用した防災啓発イベント・訓練の延参加者数						
選定理由	本拠点は、子育て支援や生涯学習等の機能を有する日常利用施設であると同時に、災害時には避難所として機能することを想定している。 このため、防災機能については収容人数等の施設性能ではなく、平時からの利用や体験を通じて市民に認知・浸透し、実際に活用できる状態にあるかを評価することが重要である。 そのため、防災啓発イベントや訓練への参加状況を把握することで、防災機能の実効性および拠点の利用実態を評価する指標として本指標を設定する。						
指標の定義	中央病院跡地及び旧庁舎跡地において実施される、防災機能の理解・体験を目的とした以下のイベント、社会実験、訓練等に参加した人数の延べ数。 ● 避難訓練、初動対応訓練等の防災訓練 ● 防災啓発イベント（工業高校を巻き込んだ、かまどベンチ製作などのワークショップ、防災 VR や炊き出しなどの体験会等） ● 子育て・交流イベントと一体的に実施される防災プログラム ※単なる通常イベント（防災要素を含まないもの）は対象外						
データ入手方法・頻度	<table><tr><td>■データ入手方法</td><td> ● 各年4月頃に、前年度分の中央病院跡地及び旧庁舎跡地の施設貸出記録、報告内容を元に対象事業と可能な範囲で参加者数を把握 ● 未把握の場合は主催者報告に基づく推計値を用いる ● 各イベント実施後に参加者数を記録し、年度末に集計 </td></tr><tr><td>■計測頻度</td><td>年1回（年度単位で合計値を算出）、進行管理のため半期ごとに中間集計</td></tr></table>			■データ入手方法	● 各年4月頃に、前年度分の中央病院跡地及び旧庁舎跡地の施設貸出記録、報告内容を元に対象事業と可能な範囲で参加者数を把握 ● 未把握の場合は主催者報告に基づく推計値を用いる ● 各イベント実施後に参加者数を記録し、年度末に集計	■計測頻度	年1回（年度単位で合計値を算出）、進行管理のため半期ごとに中間集計
■データ入手方法	● 各年4月頃に、前年度分の中央病院跡地及び旧庁舎跡地の施設貸出記録、報告内容を元に対象事業と可能な範囲で参加者数を把握 ● 未把握の場合は主催者報告に基づく推計値を用いる ● 各イベント実施後に参加者数を記録し、年度末に集計						
■計測頻度	年1回（年度単位で合計値を算出）、進行管理のため半期ごとに中間集計						
関連する KGI	（ほっとしよう！）防災対策がしっかりとしていると感じる人の割合						
関連する取組事業	直接的	中央病院跡地利活用（計測対象とする施設を整備するため） 庁舎跡地等活用検討事業・屋内遊び場整備事業（計測対象とする施設を整備するため） 1次避難所の指定・運営管理（計測対象とする施設を整備するため） 文化センター改修検討事業 （計測対象とする施設を子育て支援拠点開業まで維持するため） 中央病院跡地トライアル・情報発信 （計測対象とするイベント・社会実験等を行う可能性が高いため） 旧庁舎跡地トライアル・情報発信（同上）					
	間接的	まちなかデザイン構築事業（デザイン協議会等で評価活動を行うため） 3D都市モデルユースケース開発事業（防災シミュレーションや啓発コンテンツとして活用されることで、防災理解の促進に寄与するため）					
	関連性薄い	高校の魅力化事業（対象となるイベントや訓練の主体とならないため） 玉名第1保育所整備事業（対象となるイベントや訓練に影響がないため） まちなか・都市整備（対象となるイベントや訓練の主体とならないため） 子どもが自由に遊び学ぶ場づくり（同上） 子ども家庭総合支援事業（同上） 利用者支援事業（同上） タマにゃん教室事業（同上）					

5 評価指標の設定根拠 (ウ)リーディングプロジェクト取組指標(KPI)

【KPI-3 (LP①拠点整備プロジェクト)】

指標名	子育て世帯の WS や社会実験等の参加者数					
KPI の選定理由	子育て世代が拠点づくりに主体的に関わっているかを測るため、子育て世代の参画や関心の高まりを捉える指標として設定。					
KPI の定義	跡地活用、保育所整備事業、屋内遊び場整備検討にかかる社会実験、WS 等の延参加者数 ※「子育て世帯向け」の定義：本 KPI では、まちなかエリアで実施されるもので、未就学児または小学生以下の子どもを持つ保護者及びその同伴者を対象としたものとする。					
データ入手方法・頻度	<table><tr><td>■データ入手方法</td><td> - 各社会実験・ワークショップの参加者受付情報（属性項目）から把握 - 実施主体（市担当課、委託事業者等）が参加者数を記録 - 事務局において対象事業を整理し、一覧台帳として集約 </td></tr><tr><td>■計測頻度</td><td>年 1 回（年度単位で合計値を算出）、進行管理のため半期ごとに中間集計</td></tr></table>		■データ入手方法	- 各社会実験・ワークショップの参加者受付情報（属性項目）から把握 - 実施主体（市担当課、委託事業者等）が参加者数を記録 - 事務局において対象事業を整理し、一覧台帳として集約	■計測頻度	年 1 回（年度単位で合計値を算出）、進行管理のため半期ごとに中間集計
■データ入手方法	- 各社会実験・ワークショップの参加者受付情報（属性項目）から把握 - 実施主体（市担当課、委託事業者等）が参加者数を記録 - 事務局において対象事業を整理し、一覧台帳として集約					
■計測頻度	年 1 回（年度単位で合計値を算出）、進行管理のため半期ごとに中間集計					
関連する KGI	（はぐくもう！）地域のまちづくり活動に関心を持つ若者や子育て世代が増えていると感じる人の割合					
関連する取組事業	直接的	中央病院跡地利活用（社会実験実施場所と、その結果を反映する対象事業のため） 中央病院跡地トライアル・情報発信（計測対象とする事業のため） 庁舎跡地等活用検討事業・屋内遊び場整備事業（社会実験実施場所と、その結果を反映する対象事業のため） 旧庁舎跡地トライアル・情報発信（計測対象とする事業のため） 高校の魅力化事業（総合学習に関連して WS 等参加が期待できるため） 子どもが自由に遊ぶ学び場づくり（計測対象とする事業のため）				
	間接的	文化センター改修検討事業（社会実験実施場所を安全に利用できるようにするため） まちなかデザイン構築事業（デザイン協議会等で評価活動を行うため）				
	関連性薄い	3D 都市モデルユースケース開発事業（社会実験との関連が薄いため） 玉名第 1 保育所整備事業（社会実験とは無関係に整備が行われるため） 1 次避難所の指定・運営管理（社会実験とは無関係に整備が行われるため） まちなか・都市整備 （回遊性向上のための社会実験だが、当該社会実験等とは趣旨が異なるため） 子ども家庭総合支援事業（日常的な相談拠点運営のため） 利用者支援事業（日常的な相談・情報提供活動のため） タマにゃん教室事業（日常的な事業のため）				

【KPI-4 (LP①拠点整備プロジェクト)】

指標名	まちなかエリアの情報発信を行う各種 SNS の総フォロワー数		
KPI の選定理由	整備前の社会実験等の取組内容を発信し、関心層を広げることで、ニーズに合致した拠点整備と市民の機運醸成につなげる。その広がりを把握する指標として設定。		
KPI の定義	市が関与する、まちなかエリア（旧庁舎跡地・中央病院跡地を含む）における情報発信媒体（SNS）のフォロワー数の合計。		
データ入手方法・頻度	半期（年 2 回）ごとの以下のアカウントのフォロワー数を計測 各アカウントの管理画面・公開情報から事務局が直接確認		
	■対象アカウント（例）	● 市公式 SNS（まちなか・子育て・生涯学習に関する情報発信を行うもの） ● プロジェクト関連 SNS（魅力向上委員会、拠点検討・運営主体 等） ● 社会実験・イベント等の公式アカウント	
	■備考	● 同一人物による複数アカウントの重複は排除しない（延べ数として把握） ● 新規立ち上げ・終了アカウントも含め、当該年度に存在した媒体を対象 ● 社会実験やイベント後の増減を確認し改善に活用	

5 評価指標の設定根拠 (ウ)リーディングプロジェクト取組指標(KPI)

関連する KGI	玉名市に愛着や親しみを感じるひとの割合	
関連する取組事業	直接的	中央病院跡地利活用（社会実験＝発信コンテンツの源泉となるため） 中央病院跡地トライアル・情報発信（同上） 庁舎跡地等活用検討事業・屋内遊び場整備事業（同上） 旧庁舎跡地トライアル・情報発信（同上） 高校の魅力化事業（若者主体の活動＝発信の魅力・拡散性向上につながるため） まちなか・都市整備（回遊性向上のための社会実験で回遊・滞在の魅力を発信可能なため） 子どもが自由に遊ぶ学び場づくり（利用者により投稿される可能性が高いため）
	間接的	まちなかデザイン構築事業（デザイン協議会等で評価活動を行うため） 文化センター改修検討事業（社会実験実施場所を安全に利用できるようにするため）
	関連性 薄い	3D 都市モデルユースケース開発事業（社会実験との関連が薄いため） 玉名第 1 保育所整備事業（社会実験とは無関係に整備が行われるため） 1 次避難所の指定・運営管理（社会実験とは無関係に整備が行われるため） 子ども家庭総合支援事業（日常的な相談拠点運営のため） 利用者支援事業（日常的な相談・情報提供活動のため） タマにゃん教室事業（日常的な事業のため）

【KPI-5（LP②交流プロジェクト）】

指標名	子育て支援に関する事業やイベント等で「気軽に相談できる」と感じた人の割合	
KPI の選定理由	本プロジェクトでは、子育て世帯が孤立せず、安心して相談・交流できる環境づくりを目指している。単に相談件数の増加を指標とした場合、課題の深刻化（病児・DV 等）による増加も含まれるため、施策の成果を適切に評価できない。 そのため、子育て支援事業や交流イベント等への参加を通じて、「気軽に相談できる」と感じられる環境が形成されているかという心理的ハードルの低減（安心感・関係性の醸成）を把握する指標として、本 KPI を設定する。	
KPI の定義	子育て支援に関する事業・イベント等の参加者に対するアンケートにおいて、「気軽に相談できると感じた」と回答した人の割合	
	■ 回答区分 (例)	とてもそう思う、どちらかといえばそう思う、どちらともいえない、あまりそう思わない、全くそう思わない
	■ 定義	「とてもそう思う」＋「どちらかといえばそう思う」の合計割合（％）
データ入手方法・頻度	■ データ入手方法	● 子育て支援イベント、交流事業、相談会等の参加者に対するアンケート調査（WEB） ● 実施主体（市担当課、委託事業者、運営団体）が回収し、事務局で集計 ● できるだけ設問文を統一（年度比較可能にする） ● 回答負担軽減のため簡易アンケート（1～3 問）でも可
	■ 計測頻度	年 1 回（年度単位で合計値を算出）、進行管理のため半期ごとに中間集計
関連する KGI	（ほっとしよう！）まちなかエリア内で、「ほっとする」場所があると感じる人の割合	
関連する取組事業	直接的	子育て支援拠点事業（日常的な相談の場が確保できるため） 放課後児童健全育成事業（学童保育） （保護者に子どもの様子を伝える際、子育てに関する相談につなげることができるため） 利用者支援事業（日常的な相談・情報提供活動のため）
	間接的	情報発信（利用機会を広く発信できることのできるため） まちなかデザイン構築事業
	関連性 薄い	中央病院跡地トライアル・情報発信（日常的な相談活動と関連が薄いため） 高校の魅力化事業（日常的な相談活動と関連が薄いため） 玉名市まちなかプラットフォーム基盤強化事業（同上） やりたい人と活動をつなぐ仕組みづくり（同上） 交流のためのイベントや場づくり（同上） ファミリーサポートセンター事業（同上）

5 評価指標の設定根拠 (ウ)リーディングプロジェクト取組指標(KPI)

【KPI-6 (LP②交流プロジェクト)】

指標名	交流活動参加者数					
KPI の選定理由	本プロジェクトでは、多世代が関わる交流の場を創出し、市民・団体・学生等の主体的な交流活動を広げていくことを目指している。こうした取組の進展を把握するためには、実際に活動に参加する人の広がりを定量的に把握することが重要である。 交流活動参加者数は、イベントやワークショップ、交流事業等への参加を通じて、多様な主体がまちづくりに関与している状況（関与人口の規模）を直接的に示す指標であり、交流の場の広がりや活動の活性化状況を把握する基礎的な指標として有効である。					
KPI の定義	まちなかにおける交流活動として位置づけられる各種事業に参加した人数の合計（延べ人数） 本指標における「交流活動」とは、以下のように地域との関わりや交流、主体的な参加を通じて関係性形成・課題解決につながる取組を指す。 ■対象事業例 ● 高校の魅力化事業（玉名未来づくり研究所等） ● 玉名市まちなかプラットフォーム基盤強化事業 ● 交流のためのイベントや場づくり ● ファミリーサポートセンター事業 小規模イベントも漏れないよう「把握する範囲」を事前に定義					
データ入手方法・頻度	各対象事業の実施主体（市担当課、委託事業者、運営団体等）が把握する参加者数を基に、事務局において集約する。 <table><tr><td>■データ入手方法</td><td> ● 各事業の実施記録（受付簿、参加申込データ、実施報告書 等）から参加者数を把握 ● 実施主体が簡易報告様式により報告（例：事業名／実施日／参加者数／実施主体） </td></tr><tr><td>■計測頻度</td><td> ● 年1回（年度単位で合計値を算出）、進行管理のため半期ごとに中間集計 </td></tr></table>		■データ入手方法	● 各事業の実施記録（受付簿、参加申込データ、実施報告書 等）から参加者数を把握 ● 実施主体が簡易報告様式により報告（例：事業名／実施日／参加者数／実施主体）	■計測頻度	● 年1回（年度単位で合計値を算出）、進行管理のため半期ごとに中間集計
■データ入手方法	● 各事業の実施記録（受付簿、参加申込データ、実施報告書 等）から参加者数を把握 ● 実施主体が簡易報告様式により報告（例：事業名／実施日／参加者数／実施主体）					
■計測頻度	● 年1回（年度単位で合計値を算出）、進行管理のため半期ごとに中間集計					
関連する KGI	（かたろう！）まちなかエリア内で、まちの魅力向上のためのワークショップやイベント等で楽しく過ごせた人の割合					
関連する取組事業	直接的	高校の魅力化事業（総合学習をきっかけに活動参加する若者が増えることが期待できるため） 玉名市まちなかプラットフォーム基盤強化事業 （魅力向上委員会の活動が活性化することで、まちづくり活動が盛んになるため） 交流のためのイベントや場づくり（計測対象とする事業のため） ファミリーサポートセンター事業 （サービス提供者は地域課題の解決に取り組んでいるため）				
	間接的	やりたい人と活動をつなぐ仕組みづくり（参加機会を拡大できるため） 情報発信（参加機会を広く発信できることが出来るため） まちなかデザイン構築事業（デザイン協議会等で評価活動を行うため）				
	関連性薄い	子育て支援拠点事業（日常的な相談拠点運営のため） 放課後児童健全育成事業（学童保育）（日常的な事業のため） 利用者支援事業（日常的な相談・情報提供活動のため）				

5 評価指標の設定根拠 (ウ)リーディングプロジェクト取組指標(KPI)

【KPI-7 (LP③まちなか整備プロジェクト)】

指標名	公民連携によるまちなか整備の実施箇所数											
KPI の選定理由	本プロジェクトでは、居心地が良く滞在しやすいまちなか空間の創出に向けて、行政による整備に加え、民間事業者や地域団体等と連携した柔軟かつ持続的な空間整備を推進することとしている。 公民連携による整備の実施箇所数は、こうした取組が構想・検討段階にとどまらず、実際の空間整備として具現化されている状況（実装度）を直接的に示す指標であり、まちなかの魅力向上や回遊性向上に資する空間がどれだけ創出されたかを把握するための指標として有効である。											
KPI の定義	公民連携により、道路・広場等の公共空間の利活用整備、空き家・空き地等の利活用、拠点的空间の形成など、実際に空間の利用環境の改善や新たな活用が図られた箇所を対象とする。 なお、社会実験や検討のみの取組は含めず、それらを踏まえて実装された整備を対象とする。 <table><tr><td>■公民連携の定義</td><td colspan="2">以下のいずれかに該当するもの</td></tr><tr><td></td><td colspan="2"> ● 行政と民間事業者・団体等が役割分担して整備・運営するもの ● 民間主体の整備に対し、行政支援（制度・補助・調整等）を行うもの </td></tr><tr><td>■箇所数のカウントルール</td><td colspan="2"> ● 1つの空間単位を1箇所としてカウント（同一箇所の改修は原則重複計上しない） ● 暫定活用は、一定期間（例：年複数回以上・継続利用）が確認できる場合にカウント ● 単発イベントは含めない（交流 KPI と区別） </td></tr></table>			■公民連携の定義	以下のいずれかに該当するもの			● 行政と民間事業者・団体等が役割分担して整備・運営するもの ● 民間主体の整備に対し、行政支援（制度・補助・調整等）を行うもの		■箇所数のカウントルール	● 1つの空間単位を1箇所としてカウント（同一箇所の改修は原則重複計上しない） ● 暫定活用は、一定期間（例：年複数回以上・継続利用）が確認できる場合にカウント ● 単発イベントは含めない（交流 KPI と区別）	
■公民連携の定義	以下のいずれかに該当するもの											
	● 行政と民間事業者・団体等が役割分担して整備・運営するもの ● 民間主体の整備に対し、行政支援（制度・補助・調整等）を行うもの											
■箇所数のカウントルール	● 1つの空間単位を1箇所としてカウント（同一箇所の改修は原則重複計上しない） ● 暫定活用は、一定期間（例：年複数回以上・継続利用）が確認できる場合にカウント ● 単発イベントは含めない（交流 KPI と区別）											
データ入手方法・頻度	<table><tr><td>■データ入手方法</td><td> ● 市担当課（都市整備課等）における整備事業台帳 ● 関係部局（住宅、子育て、民間連携等）からの情報収集 ● 民間事業者・団体からの報告（補助事業、連携事業等） </td></tr><tr><td>■実務ポイント</td><td> ● 「対象箇所リスト（位置・内容・主体）」を台帳化 ● GIS 等で位置を可視化できるとベター </td></tr><tr><td>■頻度</td><td> ● 年1回（年度末時点の累計箇所数）、進行管理のため半期ごとに中間集計 </td></tr></table>			■データ入手方法	● 市担当課（都市整備課等）における整備事業台帳 ● 関係部局（住宅、子育て、民間連携等）からの情報収集 ● 民間事業者・団体からの報告（補助事業、連携事業等）	■実務ポイント	● 「対象箇所リスト（位置・内容・主体）」を台帳化 ● GIS 等で位置を可視化できるとベター	■頻度	● 年1回（年度末時点の累計箇所数）、進行管理のため半期ごとに中間集計			
■データ入手方法	● 市担当課（都市整備課等）における整備事業台帳 ● 関係部局（住宅、子育て、民間連携等）からの情報収集 ● 民間事業者・団体からの報告（補助事業、連携事業等）											
■実務ポイント	● 「対象箇所リスト（位置・内容・主体）」を台帳化 ● GIS 等で位置を可視化できるとベター											
■頻度	● 年1回（年度末時点の累計箇所数）、進行管理のため半期ごとに中間集計											
関連する KGI	（ほっとしよう！）まちなかエリア内で、「ほっとする」場所があると感じる人の割合											
関連する取組事業	直接的	都市地域総合交通戦略事業（道路やモビリティハブの整備につなげるため） 空き家バンク事業（公民連携により利活用がされる可能性が高いため） 老朽危険空家等除却促進補助業務 （関係権利者の協力により良好な市街地環境の形成が図られるため） 街路整備事業（公民連携により事業を推進するため）										
	間接的	3D 都市モデルユースケース開発事業 （3D 都市モデルを使い、まちなか整備の検討を行うことができるため） まちなかデザイン構築事業（デザイン協議会等で評価活動を行うため） 交流のためのイベントや場づくり（ハード整備を伴わないため） 助け合いによる移動の仕組みづくり（ハード整備を伴わないため）										
	関連性薄い	子育て支援拠点事業（日常的な相談拠点運営のため） ファミリーサポートセンター事業 （サービスの需要・供給の調整を行う事業のため）										

5 評価指標の設定根拠 (ウ)リーディングプロジェクト取組指標(KPI)

【KPI-8 (LP③まちなか整備プロジェクト)】

指標名	多世代交流イベントの開催数										
KPI の選定理由	本プロジェクトでは、まちなかにおける居心地の良い空間整備を進めるとともに、その空間を活用した交流やにぎわいの創出を通じて、持続的な活性化を図ることを目指している。 多世代交流イベントの開催数は、整備された空間や既存ストックが実際に活用され、多様な世代の交流機会が創出されている状況を示す指標であり、空間整備と利用の連動状況（使われ方の実装）を把握するための指標として有効である。										
KPI の定義	まちなかエリアにおいて、多世代（子ども・若者・子育て世帯・高齢者等）が参加する交流を目的として開催されたイベントの実施件数（年間） <table><tr><td colspan="2">■対象とするイベント</td><td> - 多世代交流を目的としたイベント（マルシェ、ワークショップ、地域交流イベント等） - 子育て支援拠点等を活用した交流イベント - 学生・高齢者等が関わる世代横断型の取組 - 社会実験として実施する交流イベント </td></tr><tr><td rowspan="2">■対象条件</td><td>以下のいずれかを満たすもの</td><td> - 複数世代の参加が想定または確認されるもの - 参加者同士の交流・関係性の形成を目的としたもの </td></tr><tr><td>除外するもの</td><td> - 特定属性のみを対象としたイベント（例：高齢者のみの講座等） - 交流要素のない単なる物販・集客イベント - 会議や内部活動等、一般参加を伴わないもの </td></tr></table>			■対象とするイベント		- 多世代交流を目的としたイベント（マルシェ、ワークショップ、地域交流イベント等） - 子育て支援拠点等を活用した交流イベント - 学生・高齢者等が関わる世代横断型の取組 - 社会実験として実施する交流イベント	■対象条件	以下のいずれかを満たすもの	- 複数世代の参加が想定または確認されるもの - 参加者同士の交流・関係性の形成を目的としたもの	除外するもの	- 特定属性のみを対象としたイベント（例：高齢者のみの講座等） - 交流要素のない単なる物販・集客イベント - 会議や内部活動等、一般参加を伴わないもの
■対象とするイベント		- 多世代交流を目的としたイベント（マルシェ、ワークショップ、地域交流イベント等） - 子育て支援拠点等を活用した交流イベント - 学生・高齢者等が関わる世代横断型の取組 - 社会実験として実施する交流イベント									
■対象条件	以下のいずれかを満たすもの	- 複数世代の参加が想定または確認されるもの - 参加者同士の交流・関係性の形成を目的としたもの									
	除外するもの	- 特定属性のみを対象としたイベント（例：高齢者のみの講座等） - 交流要素のない単なる物販・集客イベント - 会議や内部活動等、一般参加を伴わないもの									
データ入手方法・頻度	<table><tr><td>■データ入手方法</td><td> - 各イベントの主催者（市担当課、委託事業者、民間団体等）による実施記録（イベント名／実施日／場所／主催／内容 等）を基に把握 - 事務局においてイベント一覧台帳を作成し、一元管理 </td></tr><tr><td>■実務ポイント</td><td> 「多世代交流に該当するか」の判断基準を事前に共有 - 民間主体のイベントも把握できるよう、関係団体と連携 </td></tr><tr><td>■計測頻度</td><td> - 年1回（年度内の開催件数を集計）、進行管理のため半期ごとに中間集計 </td></tr></table>			■データ入手方法	- 各イベントの主催者（市担当課、委託事業者、民間団体等）による実施記録（イベント名／実施日／場所／主催／内容 等）を基に把握 - 事務局においてイベント一覧台帳を作成し、一元管理	■実務ポイント	「多世代交流に該当するか」の判断基準を事前に共有 - 民間主体のイベントも把握できるよう、関係団体と連携	■計測頻度	年1回（年度内の開催件数を集計）、進行管理のため半期ごとに中間集計		
■データ入手方法	- 各イベントの主催者（市担当課、委託事業者、民間団体等）による実施記録（イベント名／実施日／場所／主催／内容 等）を基に把握 - 事務局においてイベント一覧台帳を作成し、一元管理										
■実務ポイント	「多世代交流に該当するか」の判断基準を事前に共有 - 民間主体のイベントも把握できるよう、関係団体と連携										
■計測頻度	年1回（年度内の開催件数を集計）、進行管理のため半期ごとに中間集計										
関連する KGI	（はぐくもう！）地域のまちづくり活動に関心を持つ若者や子育て世代が増えていると感じる人の割合										
関連する取組事業	直接的	交流のためのイベントや場づくり（計測対象とする事業のため）									
	間接的	まちなかデザイン構築事業（デザイン協議会等で評価活動を行うため） 都市地域総合交通戦略事業 （多様な移動手段確保が交流イベントを利用しやすくするため） 助け合いによる移動の仕組みづくり （多様な移動手段確保が交流イベントを利用しやすくするため） 子育て支援拠点事業（多世代交流の場として子育て支援拠点の活用があるため） ファミリーサポートセンター事業 （多世代交流イベントをとファミサポ事業（支援する側、される側）の相互情報発信等が考えられるため）									
	関連性薄い	3D 都市モデルユースケース開発事業（多世代交流イベントとのつながりが弱いため） 空き家バンク事業（多世代交流イベントとの関連がないため） 老朽危険空家等除却促進補助業務（多世代交流イベントとの関連がないため） 街路整備事業（多世代交流イベントとの関連がないため）									

5 評価指標の設定根拠

参考 KPI と取組事業の関連性整理

魅：魅力向上委員会による提案 ■：コンセプトに該当 ◎：KPI と事業に直接的関係性がある ○：KPI と事業に間接的な関係性がある ー：KPI と事業の関係性が薄い

前頁までで整理したリーディングプロジェクトに紐づく KPI と取組事業の関係性は以下の通りです。

リーディングプロジェクト						LP1 拠点整備プロジェクト				LP2 交流プロジェクト		LP3 まちなか整備プロジェクト		
取組事業	コンセプト/KPI	やろう	かたろう	ほっとしよう	はぐくもう	つながろう	跡地活用に向けた社会実験やイベント等の出店事業者数	中央病院跡地や旧庁舎跡地を活用した防災啓発イベント・訓練の延参加者数	子育て世帯のWSや社会実験等の参加者数	まちなかエリアの情報発信を行う各種SNSの総フォロワー数	子育て支援に関する事業やイベント等で「気軽に相談できる」と感じた人の割合	交流活動参加者数	公民連携によるまちなか整備の実施箇所数	多世代交流イベントの開催数
LP1 中央病院跡地利活用		■	■	■	■	■	◎	◎	◎	◎	—	◎	◎	◎
LP1 中央病院跡地トライアル・情報発信 ^魅		■	■	■	■	■	◎	◎	◎	◎	—	◎	◎	◎
LP1 庁舎跡地等活用検討事業・屋内遊び場整備事業		■	■	■	■	■	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎
LP1 旧庁舎跡地トライアル・情報発信 ^魅		■	■	■	■	■	◎	◎	◎	◎	—	◎	◎	◎
LP1 LP2 高校の魅力化事業					■		○	—	◎	◎	—	◎	◎	◎
LP1 LP3 3D都市モデルユースケース開発事業		■		■			—	○	—	—	—	—	◎	—
LP1 玉名第1保育所整備事業					■		—	—	—	—	◎	—	◎	—
LP1 1次避難所の指定・運営管理				■			—	◎	—	—	—	—	—	—
LP1 まちなか・都市整備 ^魅				■			○	—	—	◎	—	◎	◎	—
LP1 子どもが自由に遊び学ぶ場づくり ^魅			■		■		○	—	◎	◎	○	◎	◎	—
LP2 玉名市まちなかプラットフォーム基盤強化事業		■	■	■	■	■	◎	—	◎	◎	—	◎	◎	◎
LP2 やりたい人と活動をつなぐ仕組みづくり ^魅						■	○	—	○	○	—	◎	○	○
LP2 情報発信 ^魅		■	■		■		○	—	○	○	○	◎	○	○
LP2 LP3 交流のためのイベントや場づくり ^魅		■	■		■	■	◎	—	◎	◎	—	◎	◎	◎
LP1 文化センター改修検討事業			■	■		■	○	◎	○	○	—	—	—	○
LP1 LP2 LP3 まちなかデザイン構築事業		■	■	■	■	■	○	○	○	○	○	◎	◎	◎
LP3 都市地域総合交通戦略事業				■			○	—	○	—	—	◎	◎	◎
LP3 空き家バンク事業		■				■	—	—	—	—	—	—	◎	—
LP3 老朽危険空家等除却促進補助業務		■		■			—	—	—	—	—	—	◎	—
LP3 街路整備事業				■		■	—	—	—	—	—	—	◎	—
LP3 助け合いによる移動の仕組みづくり ^魅				■		■	○	—	○	—	—	◎	◎	◎
LP2 LP3 子育て支援拠点事業			■		■		—	—	—	—	◎	—	—	◎
LP2 放課後児童健全育成事業（学童保育）					■		—	—	—	—	◎	—	—	—
LP2 LP3 ファミリーサポートセンター事業			■		■		—	—	—	—	—	◎	—	◎
LP1 子ども家庭総合支援事業						■	—	—	—	—	◎	—	—	—
LP1 LP2 利用者支援事業					■		—	—	—	—	◎	—	—	—
LP1 タマにゃん教室事業					■		—	—	—	—	◎	—	—	—

6 参考 KGI/KPI ツリー

最終的な目標(ゴール)と、それを達成するために必要な要素(プロセス)を、視覚的に整理します。

